

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コトボ幅ヶ谷九〇四 電話(03)33377-4649

FAX(03)3299-5367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 券金 中央券金本店 No.1154163

購読料 月額 700円 6カ月前納制

### 〈もくじ〉

「大津市いじめ自殺事件」はなぜ起こったか? ..... 5  
「大津市いじめ自殺事件」に思う ..... 10  
反失業共闘(千葉)はかくたたかう ..... 11  
結成の原点に立ち返り組織の拡大強化を ..... 13  
フツフツとマグマをたぎらせ ..... 13  
怒涛の県知事選 ..... 14  
読者からのおたより ..... 14

### ■巻頭言■

原発も核兵器もない日本と世界をめざして

宮坂 要 ..... 2

昨年三月二日に起きた東日本大震災と福島第一原発の事故から

資本と経営者と労働者..... 3

「週刊新社会」を読みまして.....

「大津市いじめ自殺事件」はなぜ起こったか?

水木 博 ..... 5

「日本学校教育史上初の学校・市教委への強制家宅捜査」

「大津市いじめ自殺事件」に思う..... 10

反失業共闘(千葉)はかくたたかう..... 11

結成の原点に立ち返り組織の拡大強化を..... 13

フツフツとマグマをたぎらせ..... 13

怒涛の県知事選..... 14

読者からのおたより..... 14

# 旬刊 社会通信

NO. 1126

二〇一二年八月一五日号

二〇一二年八月一五日発行  
(毎月二日・一五日二回発行)

## 原発も核兵器もない日本と世界をめざして

昨年三月一日に起きた東日本大震災と福島第一原発の事故から

一年四カ月が過ぎました。被災した人びとは、今なお厳しい生活を余儀なくされています。特に、福島第一原発の被災者は、半永久的に自宅に戻れない状態におかれています。

こうした悲劇に直面して、国民の間に「原発安全神話」に対する批判が拡がってきました。私の住む甲斐市でも、「浜岡原発の廃炉を求める市民の会」が結成され、署名運動などが取り組まれています。こうした運動は、全国各地に拡がっています。

「旬刊社会通信」は、ほぼ毎号で原発問題を論じています。今年一月一日付の111号では、滝野嘉津子さんが「再処理工場の重大事故で国民の半数が死亡」という大変ショッキングな見出しで、原発の恐ろしさと女性たちの反原発運動について述べています。また、同じ号の原野人さんの「放射能は消えない」と三月一五日号の巻頭言「原子力マフィア、独占資本孤立化の闘い」は、放射能の恐ろしさと闘いの必要性について述べています。利潤追求のために原発の稼働を続けたい独占資本との闘いなしに安心した生活はできないということです。

独占資本との闘いなしに労働者・勤労国民の生活は守れません。いま、多くの拡がりを見せている広範な市民運動とともに労働運動の階級的強化が重要になっていきます。労働運動の現状は、連合を中心とする労資協調派が主流を占めています。私たちが期待する全労協は影響力の拡大が最大の課題といえます。六月一日付機関紙「全労協」は、「原発再稼働策動を阻止しよう」の見出しで、大飯原発再稼働に反対する主張を展開しています。これは至極当然の主張で、反論の余地はないといえます。

一二春闘も賃金要求とともに、「東日本大震災と原発事故被害からの復旧・復興と、安全・安心・安定した、人間らしく働ける社会の実現をめざす」として闘われてきました。「日本を変える闘い」と位置付けられた全労協春闘は、今後の脱原発運動にも大きな影響をもたらすものと思います。

しかし、野田政権は、六月一六日、関西電力・大飯原発の再稼働を決定しました。今年五月五日の子どもの日に、北海道の泊原発が運転を停止して、わずか一カ月余で原発ゼロは消えたこととなります。

日本国民は、先の第二次世界大戦で多くの被害に見舞われ、特に、広島・長崎の原爆被害は筆舌につくしがたい悲惨なものでした。原子力の専門家である京大の小出裕章さんによると、福島第一原発の事故で大気中にばらまかれた放射線量は広島型原爆の数百分になると言います。これ以上原発を続けると人類の将来を危うくしてしまいます。世界で唯一の原爆被害国民である私たちが、率先して、原発も核兵器もない日本をつくらなければなりません。

原発の稼働によって作り出される核物質は、そのまま核兵器の原料になるといいます。そのうえ、宇宙開発という名のロケット打ち上げは、核兵器の準備ともいえます。今こそ、全労協を中心に労働運動の階級的強化を前進させ、反原発の市民運動等と

連携して、新社会党を中心とする国民運動を前進させましょう。日本と世界から原発も核兵器もない日本と世界をつくるために。

(宮坂 要)

## 資本と経営者と労働者

—『週刊新社会』を読みみて—

### 電力労組の恫喝

東京から届いた『週刊新社会』（七月一〇日）を読んで驚いた。

「東電労組の報復発言は有名だが、関電労組も『署名撤回しろ』と原発再稼働で民主議員を脅したことが六月一二日の衆院内集会で判明。滋賀県嘉田知事もその意を体した民主党議員に恫喝されて発言が豹変（六月三日、読売新聞）し……。労組は秘密結社ではない。公然と名乗れない情けない連中に恫喝されて豹変するのも情けないが、戦後政治史上、労組から独立した見解を堂々と表明できる初の護憲政党・新社会党の躍進こそ求められていると思う。」という稲村守さんの投稿があったからだ。

東電労組や関電労組等の電力総連や、電機連合の幹部も、経営者であるかのごとく、原発再稼働や輸出をすすめて、資本の利潤のために懸命らしい。

資本が大きな剰余価値（利潤）を得るということは、労働者等からの搾取が大きいということだ。経営者が資本に仕えて、より大きな利潤を求めて、より大きな搾取のために働くのは当然だ。

その資本・経営者と対峙すべき労働組合が経営者の下僕になりさがり、より大きな被搾取のために非人間となって活動するのでは、自分の首を自分で絞めるに等しい。今日の連合幹部には、労働者や農漁民や住民をいかに犠牲にしようが、資本こそが大事に見えているのだ。

多くの労働者が資本の経営者からの呪縛から解き放たれて、大衆とともに、否その先頭に立って闘わなくてはならないことを、福島悲劇は分りやすく教えている。

### 資本の本性と経営者

向坂逸郎は『日本独占資本について』の中でこう書いている。

「資本主義は、人間労働の搾取形態を資本で示し、搾取労働を剰余価値として言いあらわした。資本は、人間労働の搾取関係という人間の社会的関係である。剰余価値を取得しない、いいかえると価値増殖しない資本は資本ではない。だから、資本主義は、価値増殖、つまり人間労働の搾取を自己目的としている。人間のために、富の生産があるのでなくして、剰余価値のために、おおざっぱに不正確な言葉でいわれるように、利潤のために、金儲けのために、貨殖のためにあるのである。ここでは、人間は、資本という価値増殖の神に仕えている。貨殖は神の絶対命令なのである。（中略）」

（経営者）とは、できるだけ資本の純粹な論理をおしすすめる資本の神官である。」

（『マルクス経済学の基本問題』第三篇、『資本論』の展開）

東電や関電の社長や会長が、特別に悪人で非人情家だというのではない。資本の神

官としての任務が、彼らを非人間にするのだ。資本という価値増殖の神に仕えているから、非人間となるほかはないのだ。

労働者は資本に労働力を売る立場であるが、自らが人間らしくなるためには、非人間化した経営者という神官の奴隷であってはならぬ。

資本のために、議員や知事を恫喝するような非人間であってはならぬ。労働者が人間であるためには、労組はすべからず御用組合を脱皮して、資本と闘う階級的な組織にしなくてはならぬ。福島原発の事故はこの真実を深く教えている。

### 公務員労働者の歴史的任務

本誌五月一日号によると、公務員労働者（国・地方公務員・教員）への攻撃が激しい中、共産党系の全労連の月刊機関紙ではロナルド・ドーア氏の論文を載せ、公務労働者には搾取はないと説いている。これに対する伊勢太郎氏の批判は流石に的確だ。

マルクスはロンドンに亡命し、墓も近くにあるが、イギリス人は『資本論』などをさほど読まない。ドーア氏ほどの人物でも昔読んだことはあっても理解は深くない。

その点、日本のマルクス・向坂逸郎をもった日本人は幸せである。東電、関電のような独占資本の支配する今日の資本主義を理解しようとすれば、向坂の諸論文を読みながら、『資本論』を読むことができるからである。これこそはいま必要なことだ。

公務員労働者は水道のような現業は別として、一般に商品としての生産物は作られない。しかし、商品を生産する労働者と同様に、労働力の再生産費としての賃金が支払われる。剰余価値の姿はとらないが、剰余労働として搾取されることにおいて、他の労働者とはかわらない。今日の資本主義社会を維持してゆく上において必要な労働の一翼を担っている。商品を生産する企業内においても、企画、設計、品質管理など様々な事務的労働が不可欠なように。それぞれが社会的必要労働の重要な一部なのだ。

公務員労働者にとっては、目の前に大資本、その神官としての大経営者が見当たらないために、今日の独占資本が支配する社会を理解しにくいこともある。あるいはソ連などの崩壊や中国などの変質によって社会主義を追求する意欲がそがれてもいよう。ブルジョア諸政党が様々な形をとって乱立し、社会主義政党がなかなか成長しない歯がゆさもある。だからといって「所得再分配国家」や「働く者にやさしい資本主義」への改革などとごまかしてはならぬ。東電の悲劇的事故は、独占資本とは、資本主義国家とはどんなものか、を余すところなく大衆に教えているではないか。

独占資本を孤立化させずして、やがてはこの巨大なる収奪者を収奪せずして、今日の問題の解決はない。今日必要な理論や政策は、あくまでも資本と闘う労働者階級の立場に立ち、大衆の闘いをその目標に向けて前進させるものでなくてはならぬ。

今日の新社会党が小さいからといって、社民党を親亀として乗っかるようなことでは展望は開けない。この親亀は小沢君の爺亀に乗っかかりかねぬ。この爺亀は泥沼の中にはまり、親亀もこけることになりかねぬ。

新社会党は、少なからぬ自治体議員と党員と党友を大切にして、自分の足でしっかりと立ち、護憲と脱原発の闘いの一翼を担って、独占資本を孤立化させる共同戦線を作ることが歴史的使命である。

(在ロンドン 宗近)

## 「大津市いじめ自殺事件」はなぜ起こったか？

―日本学校教育史上初の学校市教委への強制家宅捜査―

### はじめに

昨秋大津市立〇中学生が自殺した「大津市いじめ事件」が連日マスメディアをにぎわす。インターネットでの書き込みはすさまじく、海外テレビまで放映したという。本年七月一日朝NHKテレビニュースでは、その日結成の小沢新党を抜いてトップであった。全国紙でも一面トップ記事が続く。

元同級生からの目撃証言が続々と飛び出している。大津市教育委員会や問題の学校の校長は、いじめについてのアンケートを実施してもなお「いじめの認識はなかった」などと弁明しているが、生徒側の発言とは、次第に食い違いが大きくなっている。

二〇一二年七月一九日発売の週刊文春は、いじめを目撃した生徒や被害生徒の同級生からの証言を掲載している。「女の子をナンパするよう言われ、断ったら琵琶湖の中で自慰をするよう強要した。それを岸からみんなで『あいつ、アホや』と笑いながら見ていた」「体育祭の日に観客席の鉄柵に鉢巻でくくり付けられ、『デカい声で万引きしましたって言えや』と怒鳴られていた。被害生徒が涙を浮かべている様子を携帯の動画で笑いながら撮影していた。加害生徒の一人は万引きの常習犯で、無理やり万引きさせられていた」「学校のトイレで『自殺がゴールやからな』と笑いながら暴行されていた」いずれも市教委が公表したアンケートにはなかった、具体的ないじめの内容だ。

七月二〇日には朝日新聞（電子版）が、自殺した生徒と同じクラスだった女子生徒の「加害生徒の一人が『一万円を持ってこい』と教室で男子生徒に要求しているのを目撃した」「トイレで男子生徒が殴られているのを目撃し担任に助けを求めたが、対応を後回しにされ別の先生に止めてもらった」「馬乗りになって殴られたり、ペンで顔に落書きされたりしているのを見た」という証言を報じている。

さらに七月二三日には京都新聞（電子版）が、自殺した生徒と同級だった女子生徒の『「これやるわ』と少しだけ残っていたジュースを手渡され、口を付けると急に『代金を返せ』と強く迫られていた」「教室で『こいつ万引きしよったんやぞ』と大声で叫ばれ、否定すると『明日万引きしろ』と強要されていた』という証言を掲載。いざれも読むに耐えない残酷ないじめ・暴力・窃盗・恐喝だ。そして、京都府亀岡市での登校時の児童への運転手突っこみ交通事故のごとく、大津市中学校から拡大し、連鎖反応的に全国で同様の事態が発生する。大阪でも恐喝でマンションからの飛び降り自殺、奈良でも学校内のいじめ暴力事件で警察が出動、兵庫でも凄惨ないじめ暴力事件などなど。

### 大津市立〇中学校長・大津市教育長・県教育長・文科大臣による集団殺人！

さて〇中学校問題がなぜ日本の学校教育史上初の警察による家宅捜索にまで及ぶ事件となったか。まず自殺に至らしめたのは、大津市教委に永年君臨してきた元市教育長の木田昭一郎が「誰がどういおうと」強引に推進・決定した学校選択制のゆえであ

る。保護者・生徒に他の学校を選択されないため、いじめはあってもなかったことにせねばならないのであった。だから被害生徒が痛ましくも自殺する六日前、いじめの通報があっても「けんか」とみなしたのである。最新の文科省調査でも、いじめ報告が千人当たり滋賀県大津市は一・五と全国的にも極端に少なかった。

いじめのある学校などには、次年度生徒は来なくなる。校長の死活問題だし、沢村憲次大津市教育長自身校長を勤めたといわれる中学だったからよけいだ。「学校教育法施行令第五条に、市町村教育委員会が就学予定者が就学すべき小学校（中学校）を指定することが定められている。一般的には、個々の就学予定者が就学すべき学校の決定は、教育委員会が通学区を設定するといった形で、一方的に指定する。これに対し、文部省は一九九七年に『通学区制度の弾力的運用について』という通知を出し、就学すべき学校の指定に際して、あらかじめ保護者の意見を聴取し、それを踏まえて就学すべき学校を指定することが認められるようになった。二〇〇三年には前述の学校教育法施行令が改正され、市区町村の教育委員会の判断によって学校選択制を導入出来ることが明記されるに至った（「ウィキペディア」・二〇一二年七月一九日）。大津市でこの制度実施は幼稚園と小学校で二〇〇三年四月入学から。中学ではその一年後から実施された。学校教育法施行令改正に伴って、全国に先駆けた実施を強行したのである。またその前提として「いじめ半減策」などを打ち出して、報告を「半減」させてしまった文部科学省による学校評価制度があった。「学校評価については、二〇〇七年六月の学校教育法の一部改正により、学校評価の実施等に係る総合的な根拠規定が初めて法律に盛り込まれるとともに、同年一〇月の学校教育法施行規則の一部改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が設けられました。」（同前）、と。

「悪ガキ」はどこにでもいるものである。それを「いじめ、暴力は絶対にいけない。窃盗は犯罪だ」と教え、指導してやめさせねばならない。そのことを学校評価制度といじめ半減政策と学校選択制で事件が起こっても、「いじめ暴力」という認識をあえて捨て、教育・指導を放棄した。そのことによって必然的にエスカレートして、自由ののびのびといじめ暴力・窃盗を拡大したことによって結果した人災なのである。今回の「自殺」は三人の加害者とされる生徒と放任した親だけでなく、〇学校長・大津市教育長・県教育長・文部科学大臣による集団殺人なのだ。

### 「いじめ」というから逃げられる

テレビの「大津中学校いじめ事件」の報道を見ると、使用する言葉の概念規定も力点のおき方も、混乱の極みである。教育評論家の尾木直樹氏は一貫して、「いじめ」というからややこしく、ごまかせるようになる。これは暴力・傷害・窃盗で犯罪なんです」と言われているが、至当であろう。

NPO法人全国いじめ被害者の会の大澤秀明会長も、本年七月一六日朝のみのものととのテレビで「一九八〇年まで『いじめ』も『不登校』も日本の学校にはなかった。一九八〇年に文科省が規定してから起こった」というが、これも至当だ。

「加害の子も被害の子も同じ生徒で、同様に教育する」という聞こえの良い言い方

で、暴力傷害窃盗を怒らない、指導しない教育が始まった。これは明確な起点のある文科省の政策から生み出されたことなのである。日教組の中にも「みんな違ってみんないい」などという、およそなんの教育をも放棄した見当違いな役員・活動家・組合員も出てくる。

「いじめ」の定義の決定権はローマ法王のみにある。その忠実な僕である文科大臣、県教育長、市教育長、学校長、担任にのみ聖書の判読権はある。滋賀県警本部長といえど、手出しを出来ず、一保護者の出る幕などない。どんなひどい暴力・傷害・窃盗があっても、暴言があっても、「集団で」「繰り返し」「深刻に」等々、法王とその番頭がその場の都合で判断できる要件を満たさねばならないのである。

こんなローマ法王のややこしいご託宣を排し、誰でもわかる暴力・傷害・窃盗・暴言などの有無を確認し、文科省通達前の一九八〇年前に戻し、全国の学校はまさにゼ口からの出発をすべきだ。

### 大津の警察もひどいもの

大津市民としてなんかイヤになってしまふことばかりだが、警察も警察だ。

数年前私は最終で帰宅のJR電車の中で、目の前で痴漢を目撃し注意をした。犯人は「S」という会社のバッチらしきものを背広に着用し、卵型の顔をしてメガネをした中年親父。私より一回り背格好高く大きい。その卵形は、口頭で止めた私に「この兄ちゃんと話しつけないならん」とすごんだが、被害者の若い女性はお礼を言いながら次の駅で下車した。回りのほぼ満席の客は、黙して語らず。二つ目の私の下車する駅まで脅し続けるSバッチ。

翌日、放置はよくないと半日かけてレポートにまとめ、大津警察署に持参したが、刑事はふざけた恰好で椅子に座って私を立たせたままレポートを眺め、「こんなんでどないすんねん」と、突っ返してきた。育ち盛りの四人の男子と遊んでもやれず、妻にどやされて貴重な休日は終わった。

翌月曜日、Sというイニシャルの大企業の総務に電話したが、一市民の電話は軽くあしらわれて終わりだった。幸い、シエルターを取り組む神奈川の女性団体のサポーターとなっていたので、その機関紙に掲載してもらいそのレポートは日の目を見たが。「被害届けを三回不受理」と今回の大津市O中学校事件で言われたが、私の実体験からもさもありなと思った。そして返す刀でこともあろうに市教委と中学校に「ガサ入れ」だ。また、それを沢村教育長は最初拒んだらしい（これは沢村がよく言う「伝聞」だが）。だからテレビ画面で警官が教育長室前でたくさん立っていたのであろう。それも驚きもの。

私は数年前、この大津警察の刑事にあるところで事情聴取されることがあったが、その深夜なぜか警察手帳も所持せずになわざぎやってきた二人に一通りの話をして、「これは何も出てこん」と思った刑事たちが帰りがけに質問をした。私が、「警察は学校でいろいろいじめ暴力傷害事件とかあったとき、校長や教育長とは日頃から付き合いもあるし、そっちの話を真に受けてしまうんでしょいうな」と聞いたら、すぐく血相を変えて「私たちはそんな教育行政ごときに左右されて捜査はしない。やるときはや

る」となぜか力んでいたのが、今となってはたいへん印象的である。

### わが田に水引く便乗も・・・排外主義・社会的差別は許せない

いじめの加害者を懲らしめ、中学校・市教委のひどい対応を批判すると称して、我田引水のとんでもないグループがたくさん参入している。言語道断だ。

自民党・片山さつき参議は吉本芸人をいじめて生活保護制度改悪の突破口を切り開きつつあるが、自らのブログで、天津市中学校の実名まで記入し、ヤンキー先生こと義家参議と天津の事件に心を痛めているとし、担任の前任教でのハングルの授業に違和感を持つし、「日教組政権」がことをここに至らせたと述べる。そして、支援者の書き込み欄に「大津いじめ事件の闇は簡単な縮図、すなわち部落解放同盟、日教組、朝鮮在日、民主党、左翼団体による連合軍」と。また別人には「滋賀県知事と『部落解放同盟』、さらに『市民の党』とのズブズブの関係、そして滋賀県を牛耳る『東レ』労組からの『川端大臣』への献金。大津いじめ殺人隠蔽事件の『闇の闇』が見えてきませんか」と。

追求されたら支援者が書いていて、氏名不詳と答弁するのだろうか。こういう大臣経験者でもある公的人間がHPで展開するので、二チャンネルなどでは部落解放同盟や朝鮮総連への罵詈雑言、ひどい差別言辞が飛び交う。片山議員よ。私は民主党・東レ・川端大臣には関知しないが、自殺が起こつたのは自民党・目方前市長の昨秋なのだ。市教育長も市長任命の前教育長であったのだ。直接的原因の制度創設者は自民党政権で・自民党文科大臣時の木田昭一郎元・大津市教育長なのだ。また、沢村大津市教育長は、この一月の自民党系市長時代にも教育長で、新市長になっても新たに市長推薦で議会の同意を得て教育長になったというのが正確なのだ。

大津市内で地元市民が大挙して反対運動を闘っている幸福の科学関西学園（中高）建設を進めるグループも便乗する。今年一月にこの学園建設に賛成していた自民党・目方市長が落選してから批判を始めた新・大津市長をたく絶好のチャンスであり、「うちの学園では大川総裁の指導のもと、いじめなどない」とコマーシャルまで行うあつかましさ。

いずれにせよ、どこから加害者とされる三人は部落解放同盟員の子どもであり、その組織を使って市や県や警察を動かし、隠蔽をはかっているなどいう宣伝ができるのか。先日、日本共産党員である労組幹部と話していたら、その人は元このO中学のPTA会長で、「O中はもともと同和地区を抱えているので、いろいろと問題が起きてたいへんで、指導力不足の教師もいた」という。後段はともかく、こういう言い方も差別を助長する。

旧知の部落解放同盟役員のBさんは、この地に七〇年近く住み、解放運動と人権・民主主義・平和の闘い一筋の方である。そのBさんはITで顔写真まで、家の表札・車番まで流布されている加害者とされる三人の親は全くご存知ないとのこと。

そもそも誰が被差別部落出身であるとかないとか詮索すること自体差別で、この事案と関係ない問題だが、公的な自民党国会議員が差別拡大のブログを放置しているのか。Bさんが言われるには今回のいじめ殺人事件にことよせた差別キャンペーンは決

してふつてわいたものではなく、長年にわたる部落差別、とりわけこの中学校区での被差別部落への問題発生時の責任転嫁の歴史があったことが原因と指摘されている。

また「便乗組」の新手はやはり、「担任を逮捕せよ、教育を市場原理へ」（森口朗ブログ）という、橋下大阪市長率いる維新の会の教育委員会制度解体攻撃である。自殺した生徒にテレビで涙した橋下市長は来る衆院選でさぞかし便乗宣伝するのだろう。

このままでは、日本の公教育は終焉を迎えることとなる。

## 結語

今回の大津いじめ自殺事件は、大人社会のいじめの反映である。大人たちが子どもたちにしつかりいじめ・暴力傷害・恐喝・窃盗は悪いことで、決してやってはいけないと教育してこなかったことが原因である。

国会で自公民によりまたもや労働契約法制が改悪されようとしているが、労働者の三分の一以上が派遣・有期・パート・アルバイト・下請けなどの非正規労働者として扱われいじめられている。正社員でもJALのパイロットや客室乗務員のごくもの言えば生首を切られ、裁判所もぐるになる。青年労働者の半分以上が非正規で結婚も出来ず、未来を見ることが出来ない。

「消費税を上げない」と言って当選して政権を担っておきながら、民主党・野田首相は二倍にあげるといふ。民主党や社民党の推薦で再選された環境派の誉れ高い嘉田由紀子滋賀県知事は、大飯原発再稼働反対と言ったのに「一時再稼働賛成」と変わり、「私が評論家なら反対」といふが、知事なので（賛成だ）と。そして大飯原発再稼働で節電が少しく済むようになったと、大喜びでテレビ出演する。越直美大津市長は「原発反対派だ」とある政党の県幹部から聞いていたが、立候補のビラには原発のダの字もない。「〇中学校の自殺はいじめがあったからだ」と七月十日に記者発表したのに（二〇一二・七・一一朝日新聞一面トップ）、七月下旬には「損倍裁判での判断に待つ」と先輩・嘉田知事のように変わった。

こんな国・県・市の大人社会のリーダーを見ていたら、「何でもあり」とストレスの発散を弱い子に向ける。お金も取る。今回の事件で判明分で、四五万円窃盗したという。学校選択制と教育評価制度でいじめ暴力恐喝窃盗を「ケンカ」ですます校長と教師ばかりになる。そして何よりも、そこで働く仲間で作る労組〓日教組も全教も何らの見解発表もなければ行動も起こせていない。中央から県から現場組織まで。ここにこそ日本の未来への不安がある。

日教組の先進的活動家でも、いじめ暴力被害者の保護者がこの間痛切に感じていることだが、被害者の子どもの立場に立ち切っていないのである。議論が学校長・市教委と同じ感じになっている。むしろ活動家にこそそれが濃厚でさえあった。それは、高度成長期までの日本の「左翼の常識」とでも言った方がいいのかもしれない。貧困と差別によって「加害」に走る子どもが生まれ、その子どもたちの人権を守らねばならないというようなステレオタイプの頭脳になっていると聞いたと言わずであるか。今回大津いじめ殺人事件で、朝日や毎日や地方紙は取り上げず、産経新聞を先頭に読売など含めて報道されていたことにより、問題が切り開かれていったことをど

う考えればいいのだろうか。

もちろん産経・読売の真のねらいは被害者子どもの救済ではなく、公務員攻撃、公教育破壊、教育委員会制度（これを無条件で現状維持すべきだとはいえないが）否定、日教組攻撃なのは自明だが。（二〇一二年・七・三〇、大津市在住 水木 博）

## 「大津市いじめ自殺事件」に思う

「いじめの練習をさせられていた」。マンションから飛び降り自殺した中学生をめぐるアンケート調査の内容のひどさ、警察の強制捜査に唾然とした。また、教育委員長や学校教育課長補佐、中学校長の嘘とごまかし、その発想も言い方も担任教師が出てこなかったなど事件直後の対応の悪さも、隠蔽も、私が十年ほど前にかかわった「いじめ・暴力、心の傷・不登校」被害とまったく変わっていないことにも驚かされた。

「いじめ・暴力・不登校」は経過の中で不思議な逆転現象がおこる。学校にも申すのは当然、被害者（いじめられた側）だが、なぜか加害者（いじめた側）の人権が強調され、いじめられた者を救いようのない苦しみで陥らせ、それによっていじめの側はその行為を正当化し助長し、さらにいじめることで人の輪をふやしていく。

私の友人の息子がいじめにあい心の傷を深くし不登校となった。友人夫妻はその原因を素早く捉え、安心して学校に通える環境を求め「対策と改善案」を校長や教育委員会、文科省に提示した。しかし、受け入れられず本末転倒の転校を余儀なくされた。その対応の悪さに二重三重に苦しみながらも、夫妻は息子をしっかりと見守り支え、息子も歯を食いしばって乗り切り、その甲斐あって今大学二年、勉学にスポーツに励む毎日だ。それにしても、苦しみを心の底にしまい込んで壮絶なたたかいだった。

一九九六年一月の文部大臣「緊急アピール」は「深刻ないじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうる」と、子どもたち、父母、学校の先生、地域の人々に訴えたが、今だにその前提に立つ迅速・的確な対応にはなっていない。いじめた側は「悪ふざけ」などの言い訳に終始し、いじめられた側も「屈辱」をなかなかうち明けない。そして、いじめた側はその子も親も、心ない行為が相手にどのような影響となるかについて理解がなく、人格尊重の意識も規範意識も欠如している。

重要なことは、いじめの現場を見た場合、すぐに問題の所在を明らかにし、加害者にその行為が相手の心をどれほど傷つけたか理解できるように話し、悪かったことを心から反省し謝罪できるように話しを進めていくことだ。これをやり抜く力と体制を現場につくっていく。これによって事件の真相解明にもつながっていくように思う。

教育現場が忙しすぎ子どもと向き合う時間がない、管理体制が強まって業務量も増え全体にゆとりなく、いじめを見逃してしまうとの指摘もある。本来なすべきことができる現場になっていないか、しっかり調査検証し、改善する力を育てて欲しい。

今回は僅か十数年の人生で自ら死を「選んだ」無念さにやりきれない気持ち膨らむばかりだが、このほど、学校でのいじめの事実解明に的を絞った「第三者委員会」が大津市に設置され遺族側推薦の三人が起用される。やっとここまでできたかの思いで評価したいが、被害者と加害者の不思議な逆転現象が起こらない解決を心から望む。(T)

## 反失業共闘（千葉）はかくたたかう

― 結成の原点に立ち返り組織の拡大強化を ―

### 一、職場からの労働運動の再構築を

反失業共闘（千葉県）は結成一一年目を迎えました。この間、国鉄闘争を中心に県内各地の闘いを横につなげ

一定の成果を勝ち取ってきました。しかし、一方で反失業共闘に結集する仲間の減少傾向に歯止めがかかっていません。団塊の世代の大量退職など物理的条件があります。が、決定的な弱さは仲間の拡大を勝ち取れていないことです。国鉄闘争が終結した今、どう運動を次の闘いに継続していくか、そして組織していくのか問われています。

職場での仲間作りを通して労働運動の前進を図る以外にありません。

今、多くの職場では職場闘争ができなくさせられています。連合というナショナルセンターの多くは、「労資協調」組合であり資本と闘わず基本的に制度・政策、労働組合主義で「闘わない労働組合」が中心です。原発事故に見られるように東京電力の組合は何一つ声をあげない、連合は脱原発の集会には参加しないという状況です。労働組合と政党は車の両輪でありその時代の課題、国民的要求を労働組合も一緒になってやらなければならないものを、まったくその存在は見えてきていません。

また、多くの組合では、賃金体系が大幅に崩され成果給賃金の導入や非正規労働者の拡大などで、競争や差別による分断のなかで団結の破壊が進行しています。

これまで非正規労働者は一七〇〇万人を超え、年収二〇〇万以下という労働者が拡大しつづけています。いわば四人に一人がこのような実態にあり、「いつでも雇用、いつでも首切り」の状況にあります。「文句いうならやめろ」と恫喝され、やむなく職場に残るが無権利、低賃金、時間外労働などボロ雑巾をさらにしぼり取るような労働職場が浮きぼりにされています。まさに人間を人間として扱う企業は少なく、これに抵抗する労働組合の姿が見えてこないのが現実です。

このままで良いはずがありません。苦しくとも職場で声をあげ運動にしていく、アキラメずここに手をさしのべ、一人ではなく仲間がいることを確信させることが大切になっていきます。

正規、非正規にかかわらずともな賃金ももらえず将来設計も立たず、不安だけの人生ではなく、切り拓く労働者としての思想性を学習し交流し、つなげていく、その役割を私たち一人ひとりが持つことが問われていると思います。

### 二、企業を超えた学習と交流が闘う力

これまで反失業共闘は「国鉄闘争から何を学ぶのか」をテーマに五回「国鉄闘争座談会」を開催してきました。国鉄闘争の闘い続ける原点の総括では「学習と交流」があったことを教訓として報告されました。

まさに闘い続けるには労働者として思想、職場、社会の主人公は労働者であることの誇りと、首切りに対する当局への怒りはつねに学習が基本になればアキラメてし

まいます。さらに、多くの仲間の支え、交流が闘いつづけることが出来たとの思いは労働者として共通のことであつたと思います。闘いは一人から始まりますが、闘いつづけるためには学習と交流はその必須条件です。

今、資本の側は、網の目のように労務管理し賃金、成果給など「物言わぬ労働者」労務政策が貫徹しています。何か言えば配転、差別分断が横行し、企業内での活動家を企業の中に閉じ込め、企業外との交流を可能な限り排除したいと望んでいます。「会社あつての労働者」という企業意識、逆らえば将来の生活の補償はないなど、まさに無権利ななかで働かされている労働者が作られつつあります。

これまで、日本労働運動の弱点は企業内労働組合が中心であり、自分の所だけよければという狭いなかで運動がされてきました。しかし、新自由主義に基づく今日の経済状況はどこの職場でも大幅な人件費コスト削減、非正規労働者の拡大などによって、その一切の犠牲は働く者に転嫁される今日、一步踏み出し、声をあげ、学習、交流を通じて働く者の連帯を職場、地域から作り上げていくことが大切になっています。

### 三、反失業共闘の強化拡大に向けて

反失業共闘会議の位置と役割は何か。それは共闘会議規約に定めたように、その目的は「反首切り、反差別、人権擁護、環境、福祉、平和の破壊を許さず、闘う全ての労働者と連帯し、労働者の人権がなによりも大切にされる社会をめざす」としています。国鉄闘争が一定の終結をした今も、私たちの闘う課題は山積しています。

もちろん私たちの力はそう大きくはありません。しかし、これまで一一年間、不十分ながらも県下の闘いを横に繋ぎ、非正規・未組織の仲間とも連帯し、国鉄闘争では一定の役割を果たしてきました。それはいわゆる指示・指令ではなく、自らの意思で闘いに参加してきました。こうした闘いの中で「闘う拠点」として、一定の存在価値を持ちつつあるのではないか。

非正規が全労働者の三割を超え、雇用と生活の不安が増大するなかで、私たちの果たすべく役割はいっそう求められています。困難な情勢ではありますが、働きかければ仲間を拡大できるチャンスでもあります。ある面では歴史をつくる楽しい時代でもあります。三・一一後の脱原発を求める市民運動は大きく広がり、これまで無関心だった。若い仲間たちも立ち上がっています。職場に目を転じて「もう、黙っていられない」と小さな抵抗も始まっています。ユニオンへの駆け込みもその現われです。

ここに自信を持ち、もう一段高いレベルへの運動へ引き上げていくことが私たちに与えられた課題です。そのために私たちがなすべきことは、これまでの自らの運動を総括し、さらにもう一歩前へ出る努力をしなければなりません。それは組織と運動に責任を持つ体制づくりでもあります。

具体的には

- ① 反失業共闘（幹事会）への結集の強化―連絡体制の確立。
- ② 活動の見える化 「ニュース」発行体制の確立。
- ③ 労働相談活動の活性化と地域ユニオンの結成と連携。
- ④ 専従（半専従）配置の実現など。

引き続き、この克服に全力をあげなければなりません。いづれにしても歴史をつくるのは働く労働者です。中・長期的な視点に立って、職場と地域労働運動の再建を急がなければなりません。私たちは団結し、繋がることによって未来に希望を持つことが出来ます。歴史の歯車を回すのは私たちです。自信を持ってもう一歩前へ出ようではありませんか。

(千葉県反失業共闘)

## フツフツとマグマをたぎらせ

― 怒涛の県知事選 ―

鹿児島県の友人たちが発行する『まちづくり8・6ニュース』(七月二十五日号)に、「反原発」を掲げ鹿児島知事選に出馬した向原祥隆氏の奮闘記が載せられていた。山口県知事選でも「脱原発」の飯田哲也氏が奮闘。(編集部)

現職の伊藤知事が再選されたら川内原発の再稼働は確実。みすみす指をくわえて見ているわけにはいかない。

出ると決めたのが連休明けだから二カ月。動き出して一カ月半の超短期決戦。態勢もなかなか固まらない。フル稼働したのは実質三週間くらいだろうか。

悪気はないのだろうが、様々なところからアドバイスが集中した。いちいち聞いていたら身が持たない。一番困ったのは、ボロ負けしたら全国の原発運動にダメージを与える、と心配する言葉、というか出るなという忠告? もっともらしい物言いだから困りものだった。所詮高見の評論家の言と、聞き捨てることにした。

ついでに、内部の会議にも全て欠席することにした。昼間フルに動き回って体がへとへとになり、おまけに夜の会議で頭までへとへとになれば、投票日前に終わってしまう。実際うつ状態になった候補者も多いという。何とかこれは免れた。

選挙事務所のスタッフには、肉体的にも精神的にも負担をかけたが、その分、極力文句を言わないで言われたとおりにすることを心がけた。

佳境に入った一七日の選挙期間も後半。候補者は、繋がれた犬のようなものだと思識した。選挙カーのルート、街頭演説の場所も時間も全てスケジュール化されている。ミニ集会や大きめの立会演説会もある。おおまかなルートは知らされるものの、細かい点は直前確認となる。

「エーと、ここでは何分しゃべるんだっけ」。五分。「はいはい」。ここでは一時間。「げっ、ちよつと構成を考えなきゃ」。てなもんで、こっちへ行って「ワン」、あっちでは「キャン」、集会では「ワン、キャン、ワン、キャン」。天文館の練り歩きなんかが入れられた日には、道の左右の店に客を求めて動くもんだから、まるでサッカーボール。そんなこんなで駆け抜けてきたが、私がいらないところでも、県内各地でボランティアが「さよなら原発」「七・八投票日」なんかのポスターを手に辻立ちしてくれていた。各地での電話かけやら、一体、何百人何千人の人たちが動いてくれたことだろうか。直接選挙とは関係ないのだが、二〇〇〇人のUAコンサートも若い衆がやってのけた。

向原祥隆二〇万〇五一八、伊藤祐一郎三九万四一七〇。負けはしたけど多くの人が

反原発で立ち上がった。かつての一揆は、一味ごとく殺されていたが、この世は命まで取られることはない。フツフツとマグマをたぎらせ、再度爆発のときを待とう。

(図書出版南方新社代表 向原祥隆)

## ◇ 読者からのおたより ◇

**再び被災地** 七月初旬、福島県いわき市を視察することができました。いわき市は福山市と同じ中核市(福山市人口四七万人、いわき市人口三七万人)でもあり、福山市は被災直後からさまざまな形で支援をしています。現在も、福山市の建築課、土木課から業務支援の職員派遣が続いています。視察では、震災復興についての取り組み経過と現状、廃棄物の処理状況、被災がれきの焼却など、具体的説明を受けました。その後、沿岸地区の薄磯・豊間の現地を訪れました。津波被害の沿岸部は、私が昨年一〇月に見た仙台市の状況とほとんど変わっていませんでした。家屋は土台だけで、まわりに何軒かぼつりぼつりと取り残され、被災地のままの状態でした。一刻も早い行政としての支援の方向性が必要だと改めて知らされました。(広島県福山市議・西本章)

**編集部より** 当初から予想されていたことですが、被災地の復興は遅々として進みません。土地の私有化がその最大の原因です。

**脱原発** 地元でもさまざまな運動が広がっています。どう労働運動につなげるかが課題です。

(千葉・N)

**編集部より** 連合傘下で原発推進組合は電機連合、電力総連、基幹労連。連合、電機は停止原発の稼働、新しい原発建設をうかがっています。

**感銘** (本誌八月一日号) ロンドンに長く滞在していた為、神経がおかしくなった宗近さんの率直忌憚のない文を読み、感銘を受けた。神経がやられてるのは放射能列島にいる「日本人」全体の方で、宗近さんの方が真つ当な神経の持ち主である。毛利孝雄さんの主体的認識的を射たもので、沖縄人は、本土(ヤマト)の人々を「腐れナイチャー」と軽蔑し、怒っている。つまり、琉球人は見抜いているのだ。(茨城・H)

**編集部より** さっそく感想、うれしいですな。

**やつと夏らしく** 当地もやつと夏らしくなってきました。北海道に来た時はぜひ寄って仲間たちに滝野さんのお話をして下さい。楽しみにしています。(北海道占冠村村議・五十嵐正雄)

**編集部より** “必ず行く”といっているながら約束果たせずすみません。近く“エイ! ヤー!”と日程つくります。

**現場へ** “ぶさたしています。私、この四月より高教組執行委員長の任を降り、学校現場で職場闘争に苦心しております。一部拡大しました。社会通信に励まされています。(教組・S)

**編集部より** 拡大ありがとうございます。「いじめ」問題深刻、つらいですね。

**人口減** 一九七六年、就職した時の本町の人口二万一二六二人。二〇一一年では一万五七五八人、マイナス五五〇四人です。各年の傾向を見ると一九八七年までは毎年マイナス五〇人程度でしたが、バブルにさしかかってからはマイナス一五〇人に。バブル以降は年マイナス二〇〇人前後、町村は全国的に同傾向でしょうか。新自由主義は地方を破壊する! こんなところにも現れています。(山形・T)

**編集部より** 地方の荒廃。歴史を追ってみるとおもしろい。一九五〇年代は石油から石炭へ。一九七〇年代は造船・鉄鋼不況と大合理化、一九八〇年代は国鉄・専売・電々社の民営化と大法、農業自由化。最近では電機が典型ですが過剰生産での工場統廃合。ルネサスでは鶴岡がなくなっちゃう。TPPで日本の農業は、です。

**ドキュメンタリー映画「がん 容子の選択」** 末期の乳がん患者として最後まで無理の無い治療と悔いのない生き方を選んだ渡辺容子さんのドキュメンタリーが完成しました。

完成上映会をおこないます。(ビデオプレス <http://press.la.coocan.jp/yoko.html>)

▽と き 二〇一二年九月二十八日(金) 十八時四五分(十八時十五分会場)

▽ところ Rs アートコート(JR新大久保駅下車五分)

▽参加費 一〇〇〇円 主催・連絡 ビデオプレス 03-3530-8588

**編集部より** 昨年暮れ試写会をみました。感動的でした。渡辺さんの本も出版されていますが、医療の常識と真実、手術と薬の副作用、生き方と治療の選択等々、多くを考えさせられました。